

最近の風疹流行状況

徳村 勝昌 仲宗根民男

Recent Rubella Epidemics.

Katumasa TOKUMURA and Tamio NAKASONE

1975年南部地区において風疹の小流行があり、3,405名の患者発生が報告された。その後は流行もなく、1981年から1985年の5ヶ年間の風疹患者発生をみると図のとおりであった。即ち1981年、82年、83年は患者発生は少なく、1984年に小流行を示す患者数であった。風疹は一般に冬から春に流行すると言われており、疫学的にその流行像がはっきりしている。1985年9月、玉城中学校の女生徒101名と当研究で妊婦62名について風疹HI抗体保有状況を調べた結果、表1のとおりであった。低年齢層の中学生女生徒でも101名中60名(59.4%)が

抗体保有者であった。このことは前年、即ち1984年に自然感染による抗体獲得が推察される。妊婦62名中、抗体保有者は56名で約90%の抗体保有率であった。又、各保健所での妊婦の風疹抗体検成績をみると、表2のとおりで、各地域とも高い抗体保有率を示した。この結果から成人については風疹の流行は起こりにくいことが推測される。風疹のワクチン接種は中学校2年女子を対象に実施されており、今後沖縄においては風疹による障害の発生は極めて稀であると考えられる。

風しん患者発生状況

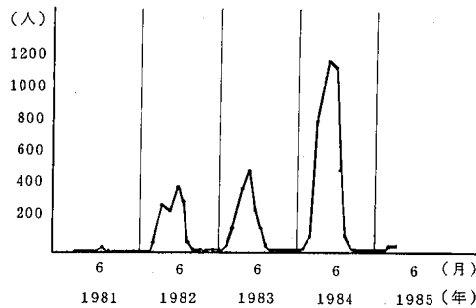


表 1. 風しんHI抗体保有状況 1985年

	13~15歳	妊 婦	合 計
< 8	41	6	47
8	0	2	2
16	0	5	5
32	15	24	39
64	16	22	38
128	18	3	21
256	11	0	11
512	0	0	0
合 計	101	62	163
陽性率(%)	59.4	90.3	71.1

表 2. 保健所別妊婦風しんHI抗体保有状況 1985年

保 険 所 名	検 査 数	陽 性 数	陽 性 率 (%)
名護保健所	21	19	90.5
石川保健所	35	30	85.7
コザ保健所	38	28	73.7
中央保健所	57	51	89.5
那覇保健所	141	117	83.0
宮古保健所	40	36	90.0
八重山保健所	297	256	86.2
合 計	629	537	85.4